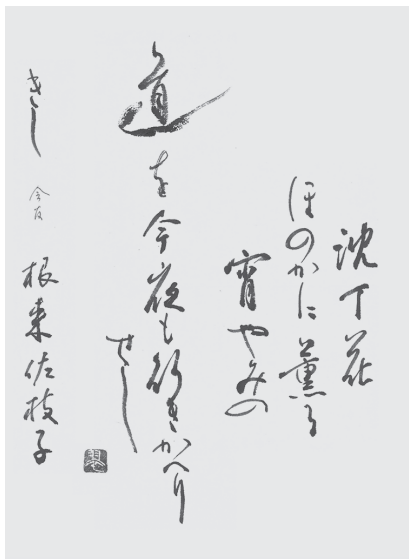


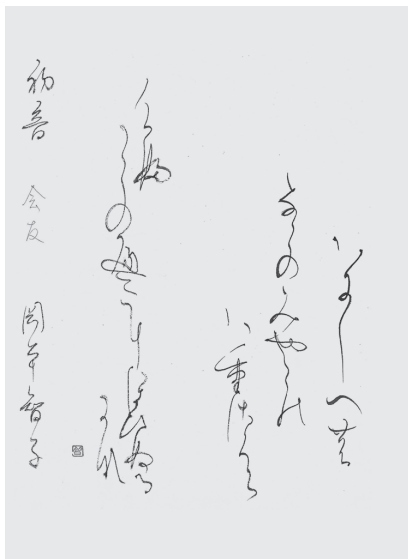
今月の最優秀作品

【新和様半紙】



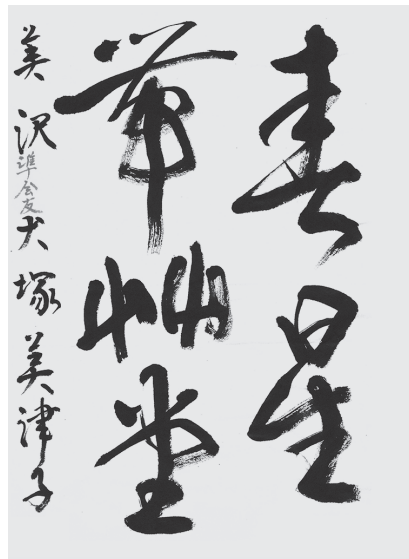
きし 根来 佐枝子 漢字とかなの調和が良く自然体で、淡い墨が柔らかさを出した。「道」で見せ場をつくり、芸術性の高い作品となった。(審査評 東仲 遙郎)

【かな半紙】



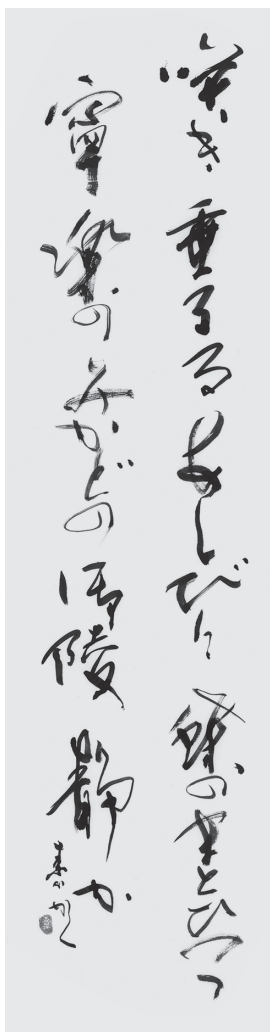
初音 岡本 智子 柔らかなタッチの筆使いが巧み。前半は、ゆったり行間をとり、後半では、見事に行を寄せ流れるように絡ませた品致高い作。(審査評 中條 琳音)

【漢字半紙】



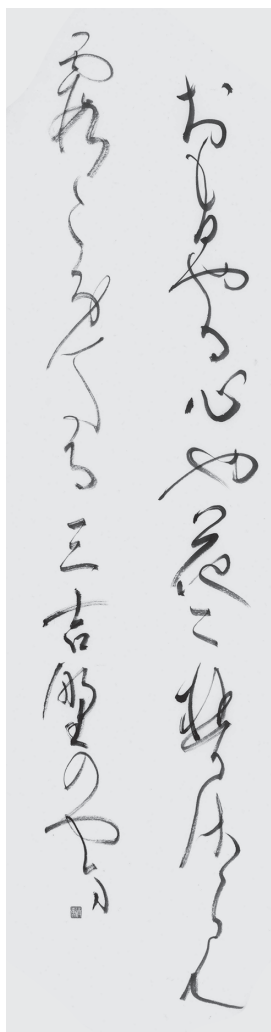
美沢 犬塚 美津子 春宵一刻を愉しむが如く、潤濁肥瘦大小長短等緩急自在に織り込みながらも余白明るく、人間性も感じさせる作。(審査評 池田 知之)

【新和様条幅】



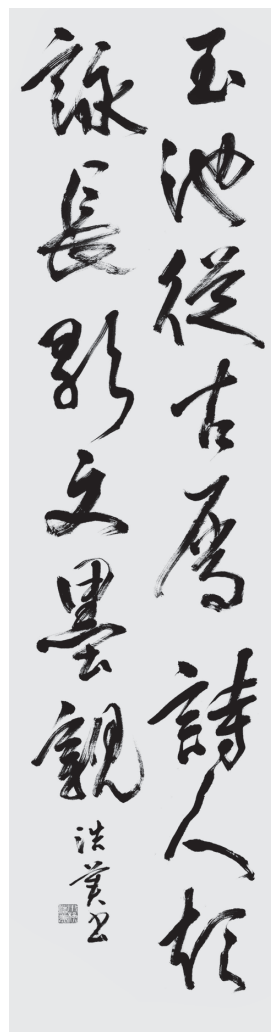
采女 熊野 素心 大且つ細心な構成。強弱ある独創性に富んだ文字によって豊かな趣を醸し出し、明るく存在感ある作品となった。(審査評 二宮 桂秀)

【かな条幅】



清和 横田 清香 潤濁に富む多彩な線が音を奏でるように紙面を躍動。筆勢豊かで墨色は温和。魅了される一作である。(審査評 中島 永岳)

【漢字条幅】



新書 小柳 浩美 一字一字の線の太細の変化が、懐の広い造型を生んでいる。その結果、明快で重厚な味わい深い作品となった。(審査評 永井 香樹)



5月提出の競書の写真版全作品は、5月28日(木)より本会ホームページに掲載いたします。

書学 平五 龍内恵理子
崇虚 佛道

加茂六 斎藤 恵美子
草堂 春星帯

大月 海八段 巖波佳代
草堂 春星帯

M 草堂 芳賀 鳳鳥
草堂 春星帯

巴未 依田 蘭香
草堂 春星帯

月倫 並木 蓮月
崇虚 佛道

心 市川 昌子
草堂 春星帯

之学 七五 田原 佳
草堂 春星帯

九 草堂 八木下 隼堂
草堂 春星帯

高田 倉友 秋本 俊月
草堂 春星帯

長六 山中 唯名
崇虚 佛道

松野 六 神田 富徳
草堂 春星帯

依伸 七 熊谷 美子
草堂 春星帯

省 北田 華道
草堂 春星帯

神倉 友 斎藤 伸子
草堂 春星帯

書学 四 松田 雅美
崇虚 佛道

土筆 五段 奥崎 和江
崇虚 佛道

書学 半七 藤村 あゆみ
草堂 春星帯

出学 八 松村 芳研
草堂 春星帯

無稿 大 河 菜花
草堂 春星帯

神目 四段 加藤 樂瑛
崇虚 佛道

書学 三 及川 理佐
崇虚 佛道

書学 半七 中垣 徳香
草堂 春星帯

昭和 八 中村 楓香
草堂 春星帯

櫻 水野 深翠
草堂 春星帯

初音 推名 桂子
崇虚 佛道

FC 五 中尾 友香
崇虚 佛道

忌 六 宮崎 里美
草堂 春星帯

松林 美柳 井 美風
草堂 春星帯

島田 建良 田 松海 雪
草堂 春星帯

書学
西山京子
佛道
崇虚

津川岸知世
佛道
崇虚

書学
山口育恵
佛道
崇虚

書学
準三段 和泉詩
佛道
崇虚

松寿準四
加藤晴美
佛道
崇虚

書学
荒川智美
佛道
崇虚

糸布
有馬みどり
佛道
崇虚

書学
準初段 堀田七元子
佛道
崇虚

春日
早川三工
佛道
崇虚

書学
準四 長尾佳苗
佛道
崇虚

和敬
星島智子
佛道
崇虚

糸月
小川佳奈江
佛道
崇虚

春水
準初 山本美穂子
佛道
崇虚

悟星
二段 聖賢嘉仙
佛道
崇虚

書学
準五 菊地秋子
佛道
崇虚

書一
小沼悠遠
佛道
崇虚

沙美
末広恵子
佛道
崇虚

書学
小金輝彦
佛道
崇虚

悟星
三級 福村尚美
佛道
崇虚

青山
三級 森浩志
佛道
崇虚

一翠
中村智子
暑
寒来
性

糸月
秋場智子
佛道
崇虚

糸月
伊藤今朝江
佛道
崇虚

守谷
石井久子
佛道
崇虚

書学
三段 竹中奈和
佛道
崇虚

文京
神田沙耶子
暑
寒来
性

松寿
高橋恵利子
佛道
崇虚

書学
木村恵美子
佛道
崇虚

大楠
初青木飛鶴
佛道
崇虚

加茂準三
中村優子
佛道
崇虚

花重錦官城

芳水

柴原かおる

暮春之初會于會稽
山陰之蘭亭

蘭亭序 王子法

梧星 高橋 圭子

暮春之初會于會稽
山陰之蘭亭

蘭亭序 遠藤真

洗心 村松 永好

王池從古屬詩人短
詠長歌文墨親

幸江書

三条 小阪 幸江

玉池從古屬詩人短
詠長歌文墨親

五月女恵子

墨香

寒来 暑往

大格

小林雅子

寒来 暑往

立親

三系 智佳子

花重錦官城

楓書

若葉 北畠 楓

暮春之初會于會稽
山陰之蘭亭

蘭亭序 於子法

北 南木 玲子

暮春之初會于會稽
山陰之蘭亭

蘭亭序 綠花法

きし 藤本 緑

玉池從古屬詩人短
詠長歌文墨親

佳心

岩城 秀子

玉池從古屬詩人短
詠長歌文墨親

平泉

千葉 方彩

寒来 暑往

書学

板谷 理

寒来 暑往

書学

鈴木朱美

花重錦官城

志菜子書

書学 木村恵美子

花重錦官城

書学

磯上真知子

暮春之初會于會稽
山陰之蘭亭

蘭亭序 慎葉

葵美 宮崎 慎葉

玉池從古屬詩人短
詠長歌文墨親

書学

岡田 和世

玉池從古屬詩人短
詠長歌文墨親

書学

小沼 大塚 恵一

寒来 暑往

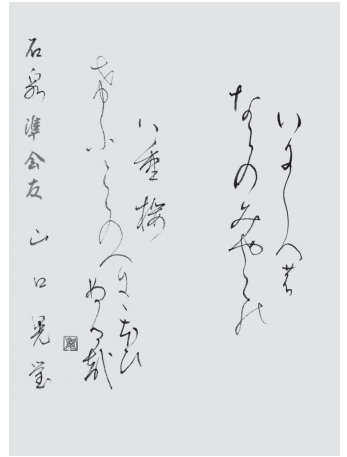
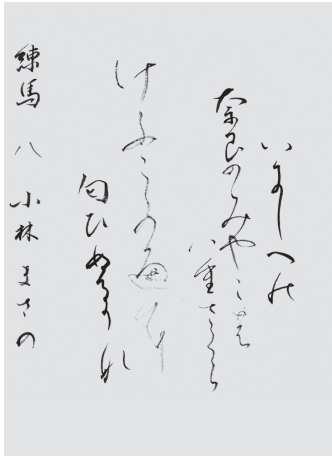
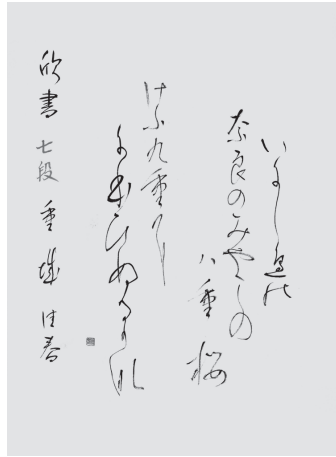
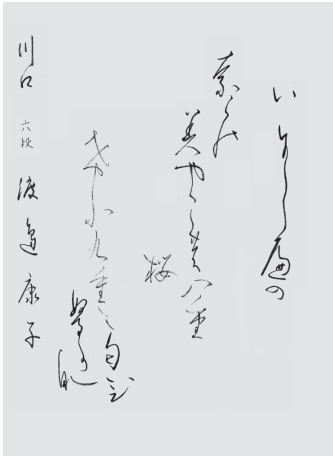
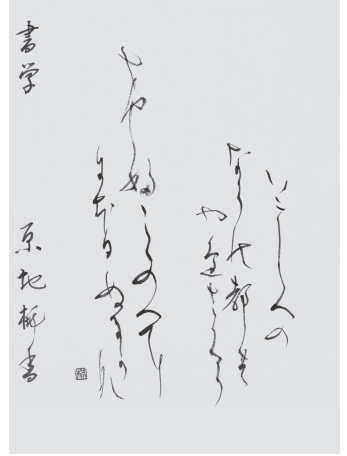
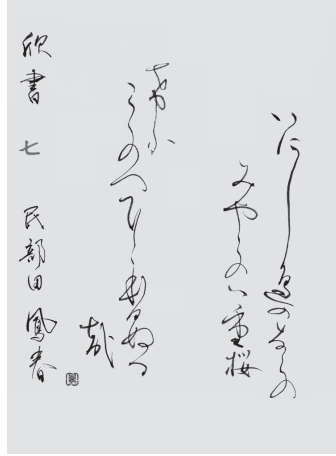
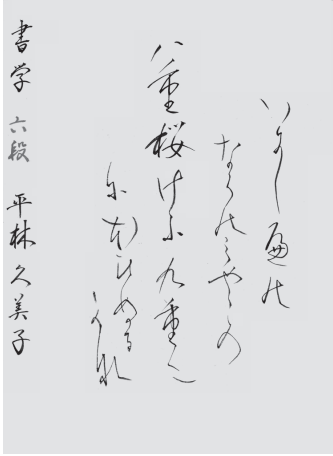
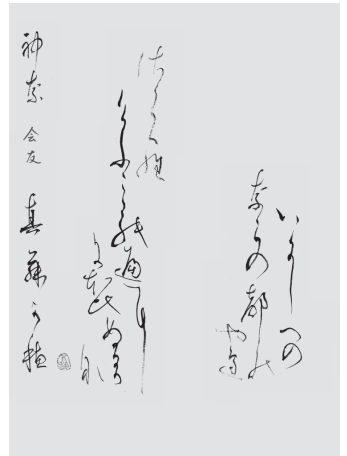
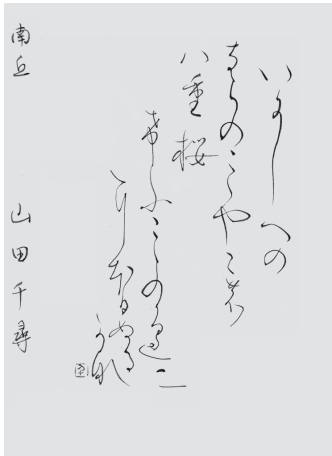
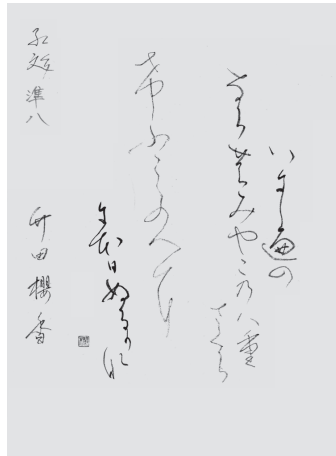
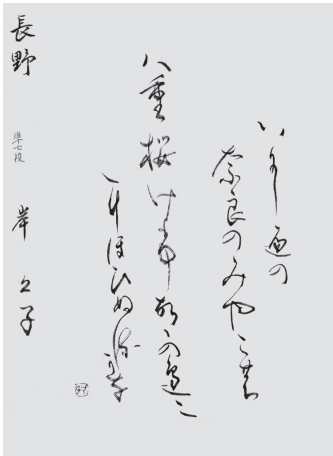
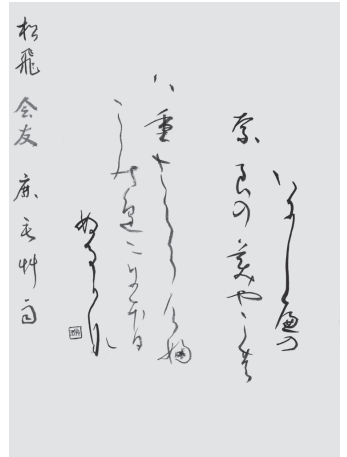
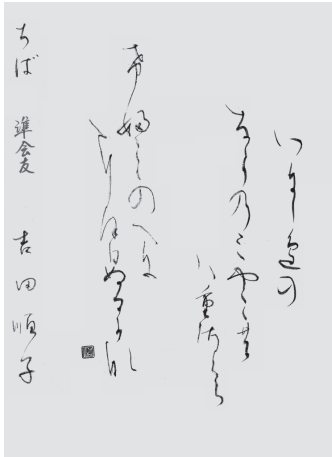
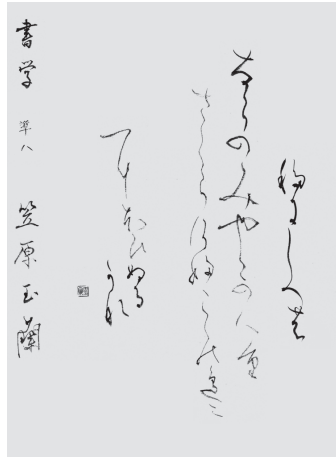
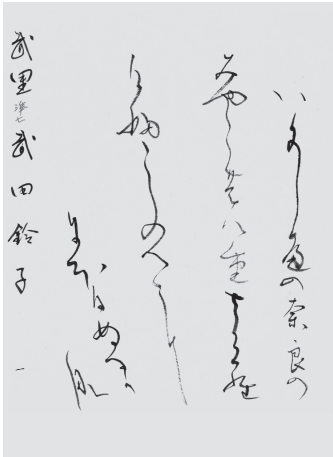
春日

高橋 ちか

寒来 暑往

書学

山田ひふ子



子安 準三 青木 貴奴

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

高石 準四 茶 規子

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

和田 準五 鶴田 佐知子

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

神戸 準六 根 津 華乃

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

書学 準三 棚澤 一浩

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

書学 準四 藤井 直子

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

きー 準五 柏原 聖奈子

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

川口 準六 山 聖井 純子

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

青梅 二 奥住 典子

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

福岡 三 村主 由記子

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

森野 四 青木 努

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

書学 五 江本 真理子

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

若水 二 近藤 しのぶ

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

鷹番 三 渡邊 貴子

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

NY 四 柳 實優

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

秋橋 五 段 門 真みい子

たはまらち 上三郎をては
いさよーはしよななもわかまを
らもれをわてまてむなぬ
のしめ

松本
雪浦梨恵
4

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

大井
高橋千賀子 2

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

草心
半初
堤美樹

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

青花
準二
宇田利加

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

守谷
石井久子
4

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

書学
渡部香尔枝
2

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

水藍
準初
佐久間明美

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

武庫準二
伊藤かおり

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

白鳥
日下部彩香
5

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

松
松本春良
3

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

書学
小泉しのぶ
1紙

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

青梅
初
小出昭子

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

書学
磯上草春
6

いろはにほへ
とちりねろを

泉北
井上倫子
3

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

永岳
中島裕子
1

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

小千
木原暖心

みこのやわらかさをよこにはけり
けりそやわかくはくまらふは
てとてけりけりよ

菜の花や月をひらき西へ

漣 坂本まり子

かすみ峰のあししほのせの
月にあまふ流はらふかみねら

玉堤 江口 綾子

かすみ峰のあししほのせの
月にあまふ流はらふかみねら

九書 石橋 栄子

かすみ峰のあししほのせの
月にあまふ流はらふかみねら

永岳 石井 陽

かすみ峰のあししほのせの
月にあまふ流はらふかみねら

香心 勝間田香心

いろはにほへ
とちりねろを
書学 垣坂紅葉

いろはにほへ
とちりねろを
書学 田上鈔陽子

いろはにほへ
とちりねろを
書学 五香 寒河江保恵

いろはにほへ
とちりねろを
つねなれたら
前田 前田綾音 10

菜の花や月をひらき西へ

書学 野澤喜代子

かすみ峰のあししほのせの
月にあまふ流はらふかみねら

松林 柳井 美風

かすみ峰のあししほのせの
月にあまふ流はらふかみねら

伊賀 藤岡 延子

かすみ峰のあししほのせの
月にあまふ流はらふかみねら

大書 谷田 陽香

かすみ峰のあししほのせの
月にあまふ流はらふかみねら

書学 古川 成子

菜の花や月をひらき西へ

紫泉 谷神 幾代

菜の花や月をひらき西へ

書学 加藤 詩遥

かすみ峰のあししほのせの
月にあまふ流はらふかみねら

游山 牧岡 牧子

かすみ峰のあししほのせの
月にあまふ流はらふかみねら

香泉 橋本 香泉

かすみ峰のあししほのせの
月にあまふ流はらふかみねら

永岳 古川 久子

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

佐伊 四 鮎谷美子

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

書学 三段 和泉 詩

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

格屋 三三 福村 尚美

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

恵那 三三 益立 啓陽

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

景園 上江洲 麻子 3

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

書学 〇 初川 美帆

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

書学 中長 村野 伸子

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

恒春 三三 生越 予子

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

清和 式石 有希子 1

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

一場 金子 有志 2

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

書学 〇 川村 三彩子

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

永岳 三三 二木 操

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

青井 初 末乃 智子

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

佐伊 〇 瀬崎 美穂子 1

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

小根 景山 剛士 4

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

九州 運四 大久保 忍

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

書学 二 蘆奈 美子

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

近浜 初 平田 智世

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

永岳 村上 由華

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

加茂 牛腸 恵子 4

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

厚木 三 瀧澤 裕子

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

小平 二 若林 久代

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

書学 〇 唐木 真理子

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

沖繩 比嘉 強 2

春日のや
朱の廻廊わたる
とき
心ばららく
花にあり

恵那 井戸 茂造

山越えて空わたりゆく遠鳴の
風ある日なりやまざくら花

大楠 岡部 康子

山越えて空わたりゆく遠鳴の
風ある日なりやまざくら花

幸丘 来栖 智子

嘆き垂る、あしびに蝶のまよひつ
寧楽のみかどの御陵静か

永岳 岡部 瑛心

嘆き垂る、あしびに蝶のまよひつ
寧楽のみかどの御陵静か

水荃 神崎 利佳

嘆き垂る、あしびに蝶のまよひつ
寧楽のみかどの御陵静か

西宮 三橋 恵子

山越えて空わたりゆく遠鳴の
風ある日なりやまざくら花

ゆめ 馬場さおり

山越えて空わたりゆく遠鳴の
風ある日なりやまざくら花

シヨ 角田 幸広

嘆き垂る、あしびに蝶のまよひつ
寧楽のみかどの御陵静か

上井 福田 光

嘆き垂る、あしびに蝶のまよひつ
寧楽のみかどの御陵静か

九書 石橋 栄子

嘆き垂る、あしびに蝶のまよひつ
寧楽のみかどの御陵静か

広島 好田 萩水

山越えて空わたりゆく遠鳴の
風ある日なりやまざくら花

白雪 荒井 和馬

山越えて空わたりゆく遠鳴の
風ある日なりやまざくら花

洗心 村松 永好

山越えて空わたりゆく遠鳴の
風ある日なりやまざくら花

游山 牧岡 牧子

嘆き垂る、あしびに蝶のまよひつ
寧楽のみかどの御陵静か

もも 服部 鮎香

嘆き垂る、あしびに蝶のまよひつ
寧楽のみかどの御陵静か

書学 酒井 葉香

拝殿に
花吹き込むや
鈴の音

書学 安部 薫

拝殿に
花吹き込むや
鈴の音

人二 安田 裕美子

拝殿に
花吹き込むや
鈴の音

前田 前田 綾香

拝殿に
花吹き込むや
鈴の音

鳴泉 瀬川 杏泉

拝殿に
花吹き込むや
鈴の音

一息 川村 一息

教習名 八雲
氏名 後藤佐代子

安部 青木 秋山 浅田
星立 荒木 井上 伊東
今井 宇野 上田 江守

教習名 伊賀
氏名 山口智代

安部 青木 秋山 浅田
星立 荒木 井上 伊東
今井 宇野 上田 江守

教習名 志水
氏名 吉田千晴

安部 青木 秋山 浅田
星立 荒木 井上 伊東
今井 宇野 上田 江守

教習名 こま
氏名 大庭 淋子

安部 青木 秋山 浅田
星立 荒木 井上 伊東
今井 宇野 上田 江守

教習名 金子
氏名 武田靖子

安部 青木 秋山 浅田
星立 荒木 井上 伊東
今井 宇野 上田 江守

教習名 豊田
氏名 加知礼子

安部 青木 秋山 浅田
星立 荒木 井上 伊東
今井 宇野 上田 江守

教習名 修豊
氏名 星立 新香

安部 青木 秋山 浅田
星立 荒木 井上 伊東
今井 宇野 上田 江守

教習名 きし
氏名 野間奈子

安部 青木 秋山 浅田
星立 荒木 井上 伊東
今井 宇野 上田 江守

規定

「石癖」

審査評—秋山

凌雲



書字

石井 孝夫

巧みな章法で、朱白が違和感なく調和した朱白相間印。引首印としても使えるような実用的な一顧。



水莖

武藤美栄子

気を銜わずに素直に布字された章法が安定感を生んでいる。外郭の変化も趣深く格調高く仕上がった。



書字

高見 敏久

甲骨文の強靱な線質と強弱が奥行きを生んでいる。封泥風の外郭は時代を異にするが、全体の調和が良く楽しめる作。

随意

「樹木方盛」



水莖

山下 啓子

筆意ある線が落ち着いた趣を醸し出している。撰文も巧みで印面の疎密に変化がある。丁寧な鈐印を心掛ければ更に魅力が増すであろう。

命終生忉利天上是時八萬四千天女作
 衆伎樂而來迎之其人即著七寶冠於采
 女中娛樂快樂何况受持讀誦正憶念解
 其義趣如說循行若有人受持讀誦解其
 義趣是人命終為千佛授手令不恐怖不
 墮惡趣即往兜率天上弥勒菩薩所弥勒
 菩薩有三十二相大菩薩衆所共圍遶有
 百千萬億天女眷屬而於中生有如是等
 功德利益是故智者應當一心自書若使
 人書受持讀誦正憶念如說循行世尊我
 今以神通力故守護是經於如來滅後闍
 浮提內廣令流布使不斷絕今時釋迦牟

書学 細川 美帆

國寶法隆寺伝来細字法華經
 命終當生忉利天上是時八萬四千天女作
 衆伎樂而來迎之其人即著七寶冠於采
 女中娛樂快樂何况受持讀誦正憶念解
 其義趣如說循行若有人受持讀誦解其
 義趣是人命終為千佛授手令不恐怖不
 墮惡趣即往兜率天上弥勒菩薩所弥勒
 菩薩有三十二相大菩薩衆所共圍遶有
 百千萬億天女眷屬而於中生有如是等
 功德利益是故智者應當一心自書若使
 人書受持讀誦正憶念如說循行世尊我
 今以神通力故守護是經於如來滅後闍
 浮提內廣令流布使不斷絕今時釋迦牟

佐野 千葉 悦子

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中无色无受想行識无眼
 耳鼻舌身意无色声香味觸法无眼界乃至
 无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
 亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
 所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
 罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
 想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
 得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

埼玉 竹内 大貴

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中无色无受想行識无眼
 耳鼻舌身意无色声香味觸法无眼界乃至
 无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
 亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
 所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
 罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
 想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
 得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

〇I 高橋 英秀

命終生忉利天上是時八萬四千天女作
 衆伎樂而來迎之其人即著七寶冠於采
 女中娛樂快樂何况受持讀誦正憶念解
 其義趣如說循行若有人受持讀誦解其
 義趣是人命終為千佛授手令不恐怖不
 墮惡趣即往兜率天上弥勒菩薩所弥勒
 菩薩有三十二相大菩薩衆所共圍遶有
 百千萬億天女眷屬而於中生有如是等
 功德利益是故智者應當一心自書若使
 人書受持讀誦正憶念如說循行世尊我
 今以神通力故守護是經於如來滅後闍
 浮提內廣令流布使不斷絕今時釋迦牟

YS 柳瀬佐代子

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中无色无受想行識无眼
 耳鼻舌身意无色声香味觸法无眼界乃至
 无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
 亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
 所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
 罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
 想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
 得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

書学 棚田 恵子

規定

（櫻）

○書体は草行体が大部分。各体に及ぶ。
○押印位置と印の大きさ研究要す。



水荳 鶴淵 雅子 青墨を淡墨に考案し、少し沈んだ墨色は、字形と紙とが渾然として見事である。含墨量の調整で濃淡潤濁の変化に成功した作。

書学 木村 香織 甲骨文字を源流とした造型表現だが、弾力と切れ味ある筆力を望みたい。紙面余白美は良好である。字形には疎密の変化を期待したい。

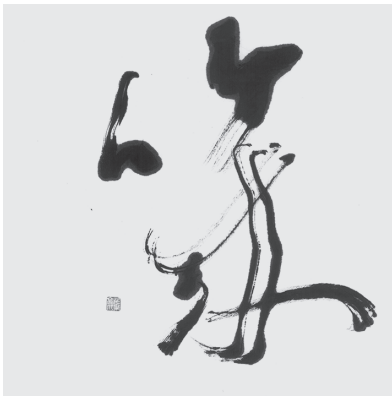
大阪 森口 幸枝 墨を吸い取らない用紙に、淡墨の変化の表情はやゝ汚いが、綺麗に見える所が面白い。長鋒の筆捌きの基盤表現はよい展開である。

櫻水 滝沢 石楠 造型を中央に置き、筆勢気分豪快で一気呵成の運筆は喉越し爽やかだ。墨色が汚いのと、造型を読解することが難題で気掛かりである。

随意

（き）

○「幾」漢字調、「𠄎」かな調が多数。「き」平がな健闘する。
○起、支、喜は課題違いとなります。



平泉 千葉 方彩 「幾」は草書体で羊毫筆の特性を生かし、多様な線の表情を展開し、書線と余白が絡み合って味わいある作。

コ文 矢川 浩子 前者同様の書体を表現した。自然体で筆路の呼吸が明快な運筆は、渴筆を引き立て風韻を感じる。

玉藻 竹野内華城 大胆な三面目縦直線は、筆の開きと渴筆の妙に運筆の強弱の変化で造型美を際立たせた。押印の位置と印の大きさに一考要す。

仙水 天艸久美子 四面に表す線の太細、長短の方向の表現変化は多様。墨色も美しく性情や気品を高める字形となる。

審査評—立川 井梧

審査評—立川 井梧